

「社会的課題解決のための大型連携研究助成」について

- 今年度も「社会的課題解決のための大型連携研究助成」（以下「大型連携研究助成」）を、昨年度に引続き一般助成の内枠の中で実施します。
- 「大型連携研究助成」は、異なる専門領域の複数のメンバーの方がチームを形成し、社会的課題の解決のため、より多角的に、連携してダイナミックに挑戦する提案型の応募に対する大型の助成です。
- 同一の研究分野の研究者がチームを組成する形では、「大型連携助成」の対象とはなりませんので、ご注意ください。また、大型連携研究助成のチームメンバーは、研究に主体的立場で参加される方になります。
- 自然科学研究分野と人文科学研究分野との学際的な研究も本助成の対象とします。なお、社会福祉の切り口で社会課題の解決を図る研究は、当財団の社会福祉事業・研究助成へ応募頂きますようお願いいたします。
- 財団ホームページに掲載している応募 Q&A も参考にして頂き、本「大型連携研究助成」に該当するか、既成概念を破るチャレンジに期待します。

1. 社会的課題とは

社会的課題は広範かつ多様であり、本助成においては特定の定義は行いません。研究対象とする課題が後述の具体的解決に結びつく、特定化され具体的であることを前提に、応募者の方が我が国の社会的課題と考えるもので構いません。

2. 解決とは

応募される研究の成果により、対象となる社会的課題が具体的に解決すること、もしくは最終的な解決に至らずとも改善に繋がること、あるいは解決の道筋が具体的かつ明確に見えることなどを目的とする研究であることとします。

3. 連携とは

課題解決のために、複数領域の研究者や、研究者のみならず課題の現場にいる実践者との連携を奨励します。複数領域とは、人文学、社会科学の中に留まらず、解決すべき課題に対応して、自然科学分野の研究者との連携も可能です。複数の領域の専門家がチームを組み、課題を多面的に捉えることで、一研究者では成し得ない奥行き感のある成果を期待するものです（なお、同じ研究分野のみの研究者によるチームは本類型には含まれませんのでご注意ください）。

4. 大型とは

連携に伴い、研究に関与するメンバーの人数が増加し、案件規模も大型化することを勘案し、1件当たりの金額を通常的人文科学助成（「一般助成」）の2倍程度と想定します。